

令和7年10月15日

文化振興課

直 通：092-643-3382

内 線：2832

担 当：市村、江上

第33回福岡県文化賞受賞者を決定しました

福岡県では、県民の皆さんの幅広い文化活動を促進し、本県文化の向上・発展を図るため、文化振興に顕著な功績のあった個人や団体に「福岡県文化賞」を贈っています。

平成5年度の創設以来、これまで126の個人・団体を表彰してきました。

このたび、市町村、文化関係団体、報道機関等から推薦があった個人・団体の中から、外部有識者で構成される「福岡県文化賞選考委員会」の選考を経て、

・創造部門 ^{いしい}石井 ^{がくりゅう}岳龍 さん（映画監督）

・社会部門 ^{むらかみ}村上 ^{さちこ}祥子 さん（料理研究家、管理栄養士、
福岡女子大学客員教授）

・奨励部門 ^{すずき}鈴木 ^{ゆうい}結生 さん（小説家）

に、第33回福岡県文化賞を贈呈することを決定しました。

今回の文化賞贈呈式&記念イベントは、令和7年12月18日（木）に、大濠公園能楽堂で行う予定としています。

1 受賞者の概要

別紙のとおり

2 福岡県文化賞について

- ・趣 旨：芸術文化、地域文化、伝統文化、生活文化など様々な視点から県民の文化活動を多角的にとらえ、特色ある文化活動により文化の振興に顕著な功績のあった個人や団体を表彰し、もって県民の多様な文化活動を奨励し、本県文化の向上・発展に資すること
- ・表彰部門：3部門（創造部門、社会部門、奨励部門）

〔創造部門〕

1. 氏名 石井 岳龍 (映画監督)
2. 年齢 68歳 ※R7.10.15現在
3. 住所 東京都 (福岡市出身)



©Naoto Sugimoto

【経歴及び選考理由】

昭和51年、日本大学芸術学部入学直後に8mm映画デビュー作「高校大パニック」で注目され、「狂い咲きサンダーロード」(昭和55年)でインディーズ界の旗手となる。「逆噴射家族」(昭和59年)により、第8回サルソ国際映画祭(イタリア)でグランプリを受賞し、「エンジェル・ダスト」(平成6年)によりバーミング国際映画祭(イギリス)でグランプリ受賞するなど、国際的にも高い評価を受ける。

短編映画製作やミュージックビデオ制作も多数。

全編福岡ロケの「水の中の八月」(平成7年)でも高い評価を得た。

福岡の小説家である夢野久作の小説を映画化した「ユメノ銀河」(平成9年)は、ベルリン国際映画祭パノラマ部門に招待され、オスロ南国際映画祭でグランプリを受賞した。

平成22年に芸名を聴互から岳龍に改名し、「生きてるものはいないのか」(平成24年)、「シャニダールの花」(平成25年)など話題作を発表している。

平成18年から令和5年まで神戸芸術工科大学で教授として教鞭をとる。著書「映画創作と自分革命 映画創作をめぐる」により、映画入門から自身の映画創作術まで、映画の持つ根源的意義と実践術をまとめ、広く学生や映画にかかわる人材育成にも熱心に取り組む。

小説家安部公房本人より直接映画化を託された「箱男」(令和6年)を安部公房生誕100年の令和6年に発表し、第74回ベルリン国際映画祭で特別招待上映された。また、本作品が評価され、令和6年度(第75回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

このように氏は、福岡ゆかりの映画をはじめとした映画作品により、国内外で評価されるとともに、大学等で後進の育成に取り組むなど、福岡県にとどまらず、日本映画界の向上・発展に貢献している。

【主な映画作品】

- 高校大パニック (昭和51年)
- 狂い咲きサンダーロード (昭和55年)
- 爆裂都市 (昭和57年)
- 逆噴射家族 (昭和59年)
- エンジェル・ダスト (平成6年)
- 水の中の八月 (平成7年)
- ユメノ銀河 (平成9年)
- 五条霊戦記 GOJOE (平成12年)
- ELECTRIC DRAGON 80000V (平成13年)
- 生きてるものはいないのか (平成24年)
- シャニダールの花 (平成25年)
- 蜜のあわれ (平成28年)
- パンク侍、斬られて候 (平成30年)
- 箱男 (令和6年)



水の中の八月 (平成7年)



箱男 (令和6年)

【受賞歴】

- 第8回サルソ国際映画祭グランプリ (昭和59年) 「逆噴射家族」
- バーミング国際映画祭グランプリ (平成6年) 「エンジェル・ダスト」
- オスロ南国際映画祭グランプリ (平成9年) 「ユメノ銀河」
- 芸術選奨文部科学大臣賞 (令和7年)

(参考) 創造部門：個性的・創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上・発展に貢献したものの

〔社 会 部 門〕

1. 氏 名 むらかみ さちこ 村上 祥子（料理研究家、管理栄養士、
福岡女子大学客員教授）
2. 年 齢 83歳 ※R7.10.15現在
3. 住 所 福岡市



©(株)スタジオコム 江口拓

【経歴及び選考理由】

昭和17年、福岡県生まれ。昭和39年、福岡県立福岡女子大学家政学部卒業。卒業と同時に結婚。北九州市に1年間居住後、東京都杉並区に転居。

昭和44年、夫の同僚の妻、ニューヨーク生まれの望月アン氏におせち料理をお裾分けしたことから、日本人と結婚して東京に住んでいるアメリカ、オーストラリア、ドイツ出身の女性12人を対象に「アンさんの料理教室」をスタート。近年は料理教室を福岡で月4回開催している。

昭和48年、アメリカ・カリフォルニアアーモンド料理コンテストで優勝。米国のアーモンド社に招かれ、これを契機にメディアデビュー。ラジオ、テレビ、月刊誌、単行本の仕事を続ける。現在、単行本は600冊、出版部数1,300万部を超える。

昭和55年、夫、村上啓助の転勤に伴い、北九州市に転居。

昭和60年より、福岡女子大学の非常勤講師を務め、病態栄養指導実習講座を担当。糖尿病患者が自宅でできる治療食の開発に努め、油控えめでも1人分でも、短時間でおいしく調理できる電子レンジに着目。以来、研鑽を重ね、電子レンジ調理の第一人者になる。糖尿病予防、改善のために開発したマイクロ波調理が、文科省の第三次食育事業「早寝・早起き・朝ごはん」で着目され、福岡市内の夏休み中の小学校に電子レンジを持参し、「ちゃんと食べてちゃんと生きる一食ベカ®をつける」講習に励む。

その他、昭和56年スタートし今日まで続く、1日1品の簡単レシピを紹介する連載「村上祥子のきょうの一品」（西日本新聞社）、日本型食生活を子どものうちから身につけるための3歳児のミニシェフ・クラブ、福岡女子大学への50万点にも及ぶ資料の寄贈（「村上祥子料理研究資料文庫」として同大学附属図書館に所蔵）等、九州・福岡の地に深く根差した活動を行い、多様な層に、自身の知見と経験、知識に基づき、食と健康について発信し続けている。

このように氏は、福岡を活動の拠点として、様々な活動を通して本県の文化振興に貢献している。

【受賞歴】

- 経済産業省2009年度第3回キッズデザイン賞（受賞対象：村上祥子のミニシェフナイフ）（平成21年）
- 料理レシピ本大賞2020エッセイ賞（令和2年）「60歳からはラクしておいしい頑張らない台所」



「60歳からはラクして
おいしい頑張らない台所」



料理教室の様子



韓国梨花女子大学にける
「日本のだし文化」の講義



小学校での講習会

（参考）社会部門：地域の特性を活かした活動を行い、個性豊かで潤いのある地域社会づくりに功績があったもの又は国際交流、地域間交流など広範な文化交流活動を行い、相互理解、文化交流の発展に貢献したもの

〔奨励部門〕

1. 氏名 すずき ゆうい 鈴木 結生（小説家）
2. 年齢 24歳 ※R7.10.15現在
3. 住所 福岡市



©朝日新聞出版写真映像部
上田 泰世

【経歴及び選考理由】

平成13年、福岡市生まれ。福島県郡山市で育つ。

福岡県立修猷館高等学校卒業。

西南学院大学外国語学部卒業、西南学院大学大学院外国語学研究科（英文学専攻）在学中。

西南学院大学在学中の令和6年、小説「人にはどれほどの本がいるか」で第10回林芙美子文学賞佳作を受けてデビューする。

同大学大学院在学中の令和7年、小説『ゲートはすべてを言った』で第172回芥川龍之介賞受賞。21世紀生まれとして初の芥川賞受賞者として話題を呼ぶ。

このように氏は、英文学の研究をするかたわら活発な創作活動を行い、本県の文学分野の文化の振興に貢献している。

【小説】

- 「人にはどれほどの本がいるか」（令和6年）
（『小説トリッパー』2024年春季号）
- 『ゲートはすべてを言った』（令和7年）
- 『携帯遺産』（令和7年）
- 「世界文学物尽」（令和7年）
（『小説トリッパー』2025年夏季号）
- 「エル・ニモ」（令和7年）
（『文藝界』2025年9月号）

【エッセイ】

- 「私にはどれほどの本がいるか」（令和6年）
（『文藝界』2024年7月号）
- 「すばらしいスモール・ワールド」（令和6年）
（『群像』2024年12月号）
- 「三人のO・K」（令和7年）
（『朝日新聞』2025年1月24日朝刊）
- 「信仰と創作」（令和7年）
（『文藝界』2025年3月号）
- 「私らが文学をする理由」
（『新潮』2025年6月号）など

【受賞歴】

- 第10回林芙美子文学賞佳作（令和6年）「人にはどれほどの本がいるか」
- 第172回芥川龍之介賞（令和7年）「ゲートはすべてを言った」
- 福岡市文化賞（令和7年）
- 第35回みんゆう県民賞（令和7年）



「ゲートはすべてを言った」
（令和7年）



「携帯遺産」
（令和7年）

（参考）奨励部門：個性的・創造的な創作活動を行い、かつ、将来一層の活躍が期待されるもの

福岡県文化賞受賞者一覧

回	年	創造部門	交流部門	社会部門	奨励部門	特別部門
1	H 5	画家 野見山 暁治	ベシヤワール会	嘉徳劇場 代表 伊藤 英子	篆刻書道家 師村 妙石	財団法人 九州交響楽団
2	H 6	作家 森崎 和江	北九州国際音楽祭 音楽 監督 新井 淑子	幸若舞保存会	作家 杉本 章子	葦書房 有限会社
3	H 7	RKB毎日放送 エタビクティブ・プロデューサー 木村 栄文	アジア美術家連盟 日本委員会	遠賀川に鮭を呼び戻す 会	作家・精神科医 帯木 蓬生	劇団 青春座
4	H 8	画家 菊畑 茂久馬	福岡県 子ども劇場連絡会	筑豊青少年交響楽団 代表 伊藤 光	俳優 中西 和久	声楽家 渡辺 葉子
5	H 9	建築家 葉 祥栄	クレイアーチスト 高鶴 元	北九州交響楽団	画家 井上 敬一	九州交響楽団 音楽監督 石丸 寛
6	H10	作家 村田 喜代子	飯塚新人音楽 コンクールを育てる会	漂着物研究家 石井 忠	鋳金家 遠藤 喜代志	グラフィックデザイナー 松永 真
7	H11	作家 白石 一郎	筑後吉井の小さな美術館め ぐり実行委員会	田川合唱団 代表 田中凡平	造形美術家 江上 計太	漫画家 松本 零士
8	H12	書家 松永 隆	社団法人 福岡県美術協会	福岡県地方史研究会 古文書を読む会	陶芸家 福島 善三	文芸評論家 星加 輝光
9	H13	作家 夏樹 静子 CGアーティスト 河口 洋一郎	特定非営利活動法人 アジア女性センター	日本史研究家 川添 昭二	(該当者なし)	ヴァイオリニスト 篠崎 史紀
10	H14	作家 高樹のぶ子	彫刻家 外尾 悦郎	田川郷土研究会	映画監督 青山 真治	写真家 石川 賢治
11	H15	作家 佐木 隆三	胡弓奏者 趙 国良	筑豊博物研究会	久留米絃作家 松枝 哲哉	財団法人 末永文化振興財団
12	H16	写真家・随筆家 藤原 新也	雅楽演奏団体 筑紫 楽所	博多史・郷土女性史研究 家 武野 要子	フルート演奏家 瀬尾 和紀	文学批評家 故・花田 俊典
13	H17	画家・版画家 川原田 徹	劇団 道化	音楽文化団体 フリソスト 吹奏楽団久留米 口演童話家 本村 義雄	(該当者なし)	彫刻家 豊福 知徳
14	H18	博多人形師 中村 信喬	国際化コーディネータ ニック・サーズ	民俗研究家 佐々木哲哉	ヴァイオリニスト 南 紫音	博多織作家 小川規三郎
15	H19	声楽家 蓮井 求道	指揮者 フォルカー・レニッケ	出版社 有限会社海鳥社	劇団主宰 大塚ムネト	漫画家 長谷川 法世
16	H20	陶芸家・詩人 山本 源太		十八世紀音楽祭協会	建築家 松岡 恭子	
17	H21	キルト作家 山口 怜子		郷土史研究家 深町 純亮	写真家 百瀬 俊哉	
18	H22	作家 葉室 麟		庶民生活史研究家 堀切 辰一	能楽師和泉流狂言方 野村 万禄	
19	H23	作家 平野 啓一郎		日本文学研究者 前田 淑	映像ディレクター 江口 カン	
20	H24	染織家 築城 則子		福岡県立大学附属研究所生涯福祉 研究センター・山本作兵衛さんを(読 む)会	作家 西村 健	
21	H25	ピアニスト 占部 由美子		NPO法人ロシナンテス理事長 川原 尚行	精華女子高等学校 吹奏楽部	
22	H26	染織家 釜我 敏子		特定非営利活動法人ま る	アクロス弦楽合奏団	
23	H27	作家 安部 龍太郎		北九州 フィルム・コミッション	デジタルアーカイブエター/九州大学大学院芸術 工学研究院学術研究員 工藤 達郎	
24	H28	美術家 田部 光子		福岡県立図書館 音訳の会	博多人形師 溝口 堂央	
25	H29	写真家 榊 晃弘		BOOKUOKA 実行委員会	和楽団ジャパンマーベ ラス	
26	H30	作家 東山 彰良 ゲームクリエイター 棚レベルファイブ代表取締役/CEO 日野 晃博		漫才師 博多華丸・大吉	(該当者なし)	
27	R 1	漫画家 うえやまとち		中洲ジャズ実行委員会	キャラクターデザイナー 谷口 亮	
28	R 2	指揮者 小泉 和裕		アートのスペース 模	作家 古川 真人	
29	R 3	博多人形師 川崎 幸子		山里の廃校利用美術館 共星の里 黒川INN美術 館	クリエイター 中村 俊介	
30	R 4	アニメーション監督 湯浅 政明		公益財団法人 福岡文化財団	人形師 中村 弘峰	
31	R 5	能楽師観世流シテ方 坂口 信男 坂口 貴信		劇団ショーマンシップ	画家 田中 千智	
32	R 6	詩人、作家、造本家 平出 隆		アーティスト・イン・レジデ ンス運営 松崎 宏史	截金作家 江里 朋子	

※H20年度から5部門のうち交流部門と特別部門を整理し3部門に統合した

第17期福岡県文化賞選考委員会委員(案)
(任期:令和7年7月9日～令和9年3月31日)

15名(50音順、敬称略)

氏 名	役 職	就任期間	摘 要
石村 一枝	株式会社石村萬盛堂	3期目	
後小路 雅弘	北九州市立美術館館長 九州大学名誉教授	1期目	
内門 博	株式会社西日本新聞社 報道センター 文化担当部長	1期目	
大井 実	有限会社キューブリック 代表 ブックオカ実行委員会 委員長	2期目	
尾本 章	九州大学 副学長 九州大学大学院芸術工学研究院 研究院長	2期目	委員長
吉柳 佳代子	九州大谷短期大学幼児教育学科 准教授	3期目	
坂口 周	福岡女子大学国際文理学部准教授	1期目	
高木 崇雄	工藝風向 代表 福岡民藝協会会長	1期目	
築城 則子	遊生染織工房 主宰	1期目	
林田 スマ	福岡県文化団体連合会副理事長	2期目	
深町 朋子	福岡女子大学国際文理学部教授	2期目	
堀 英明	株式会社ピクニック 取締役プロデューサー	3期目	
松岡 恭子	株式会社スピングラス・アーキテクト代表取締役 NPO法人福岡建築ファウンデーション理事長	1期目	
吉中 美保子	西日本鉄道株式会社 まちづくり・交通・観光推進部 部長	3期目	
渡辺 克	公益財団法人九州交響楽団 音楽顧問	2期目	